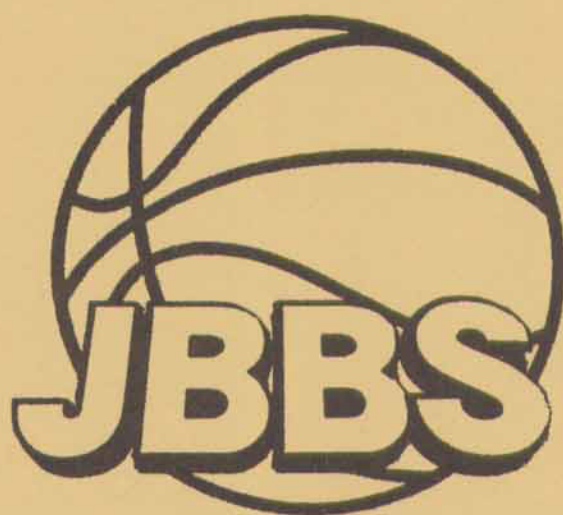


バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:38



ホームページ用
抜粋版

2008年7月

NPO法人 日本バスケットボール振興会



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

本大会唯一の公式試合球

BGL7
GL7 国際公認球 練習球
貼付・天然皮革、7種球





DASH CONCEPT
一歩で抜き去る
GELBURST SLASH

NEW 4月下旬発売 **GELBURST. SLASH**

TBF652 ¥16,800 (本体¥16,000)

■カラー：0151 ホワイト×ミッドナイトネイビー・0193 ホワイト×サンライツシルバー
■サイズ：23.5～30.0・31.0・32.0cm

株式会社 **アシックス**

アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。表示価格は消費税込みのメーカー希望小売価格です。()内は消費税抜きの価格です。商品についてのお問い合わせは「(株)アシックスお客様相談室」までどうぞ。03-3624-1814, 06-6498-5151 ※限定商品についてはお取扱いのない販売店、及び商品の数量に限りがありますのであらかじめご了承ください。

新しいバーストの秘密は.....

アシックスで聞え

検索

携帯サイトOPEN!!



アシックスはバスケットボール日本代表チームのオフィシャルサプライヤーです。





ご挨拶

理事長 小澤 正博

このたび、5月17日に開催されました総会並びに理事会において理事長に選任されました。振興会がNPO法人化して1年少々が過ぎ、内外とも大変重要な時期を迎えようとしている今、身が引き締まる思いであります。

前任の二宮理事長には5期8年間にわたって大変なご尽力をいただき、深く感謝申し上げますとともに、これからもご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、理事長就任にあたり、これからの方針についてご挨拶方々記しますので、ご支援くださいますようお願い申し上げます。

1. バスケットボール界の情勢

一昨年から続いている日本協会の混乱と紛糾ははまだ解決せず、バスケットボール界全体に暗い影を落としています。

ご承知の通り、期待された北京オリンピック出場についても、男子はアジア予選で敗退、女子は世界最終予選まで行ったものの、オリンピック出場はなりませんでした。

日本協会はこれらの状況を踏まえて、このほどジョーンズカップへの出場取りやめと、FIBAから参加要請があったダイヤモンドボール（オリンピック後、中国上海で開催）への参加を見送る決定をしました。

国内における混迷に加え、アジアにおける国際的地位にも影響が出そうな日本のバスケットボール界の情勢については、大変憂慮すべき状況といえましょう。

一方振興会については、昨年NPO法人化してから活動が活発化し、長い間懸案であった事務所についても、他の団体と同居ながら会議や活動に支障がないような広さの事務所を、神田神保町に構えることができました。

昨年この事務所を設置するに当たりまして、会員に特別寄付をお願いしたところ、多くの会員の方にご賛同を賜り深く感謝申し上げます。

また、事業活動についても、従来取り組まなかった知的障害者のバスケットに支援を行うといった新しい活動も生まれていますし、これらに充当する会費についても、その納入状況が好転するなど、会員の参加、自覚意識が向上してきております。

しかしながら、このたび会費未納者に対して会費納入の促進活動を行ったところ、退会の意味表示をする会員が増加したことも、マイナスの現象面として認識しなければなりません。

2. 今後の事業活動について

会員の範囲が一般的なバスケットボール愛好者に拡大している今日、他のバスケットボール団体と連携を強化していく必要があります。特に日本協会に対しては、協力できる分野を具体的に協力する体制づくりを進めます。現在具体的に協力できることとして、広報、編集の分野があります。

現在日本協会のこうした分野はインターネットホームページに頼っていて、後世に残

る冊子や書籍による広報活動が不足しており、日本協会の情報を書いたものによって全国に広報宣伝することも重要なことと考えるからです。

次に財務体制の強化があげられます。事業活動を更に活発化するには財源的な裏づけが必要であることは明白です。

財務体制強化についてはとりもなおさず収入の増を図ることでありますが、具体的には以下に力点をおいて活動してまいります。

ひとつは会費納入の確立です。現在会員でありながら会費の未納者がかなりおられますが、会員である以上自覚を持って会費を納入していただけるよう、会費納入の促進活動を推進します。

しかしながら会費を納入するだけで特典がなければ、やがては退会の方向になってしまいます。会員の特典として各種大会の割引入場ができるよう、関係団体と協議を進めてまいります。

次には会員の増加です。個人会員、法人賛助会員とも新会員獲得に努力してまいります。具体的に個人会員については一役員1名以上獲得を目指し、法人会員については理事長自ら交渉にあたります。

現在会報「バスケットボールプラザ」に有料広告を掲載しておりますが、これら広告の掲載社の増加を図ります。法人会員になりにくい会社であっても、広告ということであれば賛同いただける可能性があるからです。広告獲得については編集部と協力して進めていきたいと思っております。

次に各団体に対する助成の問題があります。助成については単に金銭的助成だけではあまり意味がなく、それらの団体と緊密に連携して相互扶助の体制を築いてこそ助成が生きてくるものと考えます。

知的障害者に対する支援についても、金銭的助成だけでなく、彼らの大会の手助けをするなど、行動面でも協力していく必要があるからです。

以上、基本的なことがらをいくつか掲げましたが、これらを実行していくためには会員一人ひとりの協力が必要なことはいまでもありません。

日本のバスケットボールを振興、発展させてこそ、日本の国際的な地位が向上すると考えます。

今後ともご理解とご協力、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

以上

北京オリンピックを戦う12チーム

男女共決まる

【関連図】

日本は出場できないが、この程男子世界最終予選がアテネで開催され、オリンピックに出場する男女各12チームが決まった。

ちなみにアジア代表は、男子がイラン、女子は韓国が出場する。

男子

| 〈出場国〉 | 〈出場権獲得大会〉 |
|---------|-----------------|
| スペイン | 2006 世界選手権 |
| アンゴラ | 2007 アフリカ選手権 |
| イラン | 2007 アジア選手権 |
| アメリカ合衆国 | } 2007 アメリカ選手権 |
| アルゼンチン | |
| ロシア | } 2007 ヨーロッパ選手権 |
| リトアニア | |
| オーストラリア | 2007 オセアニア選手権 |
| ギリシャ | } 世界最終予選 |
| クロアチア | |
| ドイツ | |
| 中国 | 開催国 |

女子

| 〈出場国〉 | 〈出場権獲得大会〉 |
|----------|---------------|
| オーストラリア | 2006 世界選手権 |
| マリ | 2007 アフリカ選手権 |
| 韓国 | 2007 アジア選手権 |
| アメリカ合衆国 | 2007 アメリカ選手権 |
| ロシア | 2007 ヨーロッパ選手権 |
| ニュージーランド | 2007 オセアニア選手権 |
| ラトビア | } 世界最終予選 |
| ベラルーシ | |
| チェコ | |
| スペイン | } 世界最終予選 |
| ブラジル | |
| 中国 | 開催国 |

1. 58年前、ハワイA J Aが来日するまでボールは丸くなかった？

終戦後、昭和20年代後半までボールやシューズなどの運道具類が極端に不足し、やっとな国産ゴム製のチューブに牛革の覆いをかぶせたボールが出回るが、牛革の覆いを糸で縫いつないでいたので全体的には楕円形になってしまい、バウンドも良くなくボールによっても差が出たりして、本当に丸いボールとは程遠い時期があった。

そんな中、昭和25年(1950)3月、終戦後の日本スポーツ界にとって戦後初めての国際親善バスケットボール試合が、ハワイA J Aオールスターチームを迎えて日本各地で大観衆を集めて行われた。

当時ハワイA J Aと対戦した日本選抜チームの選手の中に、現在振興会会員の方がおられるのでご紹介する。

| | | |
|---------|----|-------------------|
| 全日本チーム | 監督 | 牧山圭秀氏 (早大OB) 故人 |
| | 選手 | F 関口荘次氏 (教育大) |
| | | G 池田 博氏 (東大/日本鋼管) |
| 全日本学生軍 | 選手 | F 関口荘次氏 (教育大) |
| | | G 大塚周一氏 (早大) |
| 神戸学士クラブ | 選手 | G 住田正二氏 (東大OB) |

ハワイA J Aは、ドリブルの巧みさとスピードある速攻から繰り出す華麗なワンハンドミドルシュートなどの技術格差で、対戦した日本チームを圧倒し、8戦全勝を収めて帰国した。

日本のバスケットボール界は、戦争で中断していたブランクから本場の進歩したバスケットボールを目のあたりにしてショックを受け、大きな影響を受けたことは今でも語り草になっている。

当時彼らが持参したアメリカ製のボールが、その後日本のバスケットボール用具の発展に大変な影響を及ぼしたことは、あまり知られていないようである。以下当事のボールに関する興味ある記事があるので原文に沿ってご紹介する。

2. 「ほんとに丸い縫い目なしのボール、国体のバスケットに使用」

— 昭和25年9月 —

ボールとは丸いものと昔から決まっているが、今度の国体のバスケットボール競技にはじめて本当に丸いボールが出現した。今春ハワイチームが来征したとき、彼らが日本のボールを手にして「これではドリブルなどができるものではない、片手のシュートは無理だ」と言った。

それは日本のボールが皮を縫合して、その中にゴムのチューブが入っているのに縫い目の加減や皮の伸び縮みでイビツになるのに反して、米国製のボールは縫い目も全くないゴムボールの上に皮が貼ってあったものだったからである。なるほどこのボールなら完全にボールから目

を離しても自由にドリブルができるわけである。

日本バスケットボール協会では、ハワイチームから試合に使用したボール1個を譲り受けて美津濃運動具店で研究にあたらせた。美津濃でこのボールを解剖した結果、技術的にもっともむずかしいのはゴムボールに皮を貼り付ける接着剤の質と目方の点であった。

そこでこのゴムだけのボールを夏ごろから作成したが、これはほとんど皮のボールと狂いもなく、価格も大体靴と同じく千円程度となり、これによって高校や大学などでドリブルなどのボールハンドリングが格段によくなった。最近になって皮とゴムの接着剤が完成して、本格的なボールが出現した。

このボールはまずゴムの中心となるボールを作り、これを絹布、綿布、絹布と三段に重ね、野球のボールと同様に糸でしっかりとこれを包み、さらにゴムを貼り、皮を貼ったものに空気を入れる。パルプも非常に進化し、米国製と同様、一度空気を入れると4日から6日まで保つことが出来る。今までと違って使用しないときも空気を抜き取らずにおいておくのである。

単価は2千9百円でちょっと高いが、米国のボールが10ドルから20ドル(当時1ドル360円)であるから、むしろ安いわけである。だが練習用には裏皮を使った2千円程度のボールも試作中である。

この種の本格的ボールの出現によってボール界には革命が起こったわけで、今後のバスケットボールの技術的進歩にも大いに役立つことになる。

3. 日本代表バスケットボールチームのオリンピック初参加

北京オリンピックも開幕間近となってきたが、残念なことに日本のバスケットボールは男女とも出場ができなくさびしい限りである。本誌第35号においてベルリンオリンピックに出場した記事を掲載したが、その後当時の状況や成績を掲載した専門誌が入手できたので、原文のままご紹介する。

ベルリンオリンピックはオリンピックとして第11回目に当たり、日本の男子代表チームが初めて参加した大会である。

専門誌を発行したのは、東京神田小川町にあった「運動社」で、「籠球日本」という誌名の冊子。次ページに掲載するのは、その第1巻 第2号で昭和11年7月に発行されたもの。

記事の見出しが「オリムピック籠球競技」となっているのも面白い。



オ リ ム ピ ッ ク 籠 球 競 技

待望のオリムピック籠球競技も遂に終了し、覇権は豫想通りアメリカが持つて行つて了つた。第二位を期待してゐた日本はベルリン到着後ドイツチームと練習試合を行ひ、六十九對六の歴倒的スコアで大勝し、續いてハンガリーチームにも三十三對二十八で快勝し、オリムピックでの活躍を充分裏書きされたわけであつた。處がいよいよオリムピックが開始され組合の結果はNO.1、アメリカを唯一の目標としてゐた我チームはそのアメリカと准決勝で合ふことになり、第二位は望めなくなつたが第三位は確實、然も準選第一回戦に宿敵中華と合ひ之を撃破し、第二回戦にポーランドに勝つて米國との一戦をもあわよくばとさえ期待されるに至つたのも東の間第三戦の對メキシコ戦に拙戦して敗退して了つたのは残念だつた、併し諸試合の結果を綜合してみると我チームの實力は決してその結果の儘ではなく少くともアメリカに次いでカナダ、メキシコ等と第二位を窺ふに足るものであることが分る。今後必ず重來第一層の精進を續けて來るべき東京オリムピックにはアメリカを倒して世界制覇の偉業を待望するものである。

左にオリムピック籠球競技の判明せる分の記録を載せて置く。

◆第一回戦

| | | | |
|-------|-----|----|------|
| エストニア | 34 | 29 | 佛國 |
| ナリ | 180 | 16 | 土耳其 |
| 瑞西 | 25 | 18 | 獨逸 |
| 日本 | 85 | 19 | 中華 |
| ベル | 185 | 22 | エジプト |
| メキシコ | 32 | 13 | ベルギー |
| カナダ | 24 | 17 | ブラジル |
| ラトヴィア | 20 | 17 | ウルガイ |

◆第二回戦

| | | | |
|---------|----|----|-------|
| 比島 | 32 | 21 | メキシコ |
| ウルガイ | 86 | 23 | エジプト |
| 瑞西 | 25 | 13 | チエッコ |
| ナリ | 20 | 18 | ブラジル |
| カナダ | 39 | 23 | ラトヴィア |
| ベル | 29 | 21 | 中華 |
| 伊太利 | 55 | 16 | ドイツ |
| 米國 | 52 | 23 | エストニア |
| 日本 | 43 | 21 | ポーランド |
| 五・六位決定戦 | | | |
| 比島 | 31 | 23 | ウルガイ |
| 三・四位決定戦 | | | |
| メキシコ | 26 | 12 | ポーランド |
| 決勝戦 | | | |
| アメリカ | 19 | 8 | カナダ |

◇前半 兩軍慎重に戦を進めたが三分中華R.G.李(紹)の活躍に得點を先取されたが横山直ちに二自由山投で返し更に李(性)のゴールと横山の一自由山投で5—2とリード十分中華は速攻で逆に6—5と

| | | | | |
|----|-----|----|----|----|
| 日本 | 36 | 10 | 19 | 中華 |
| 反點 | 113 | 前 | 田 | |
| 11 | 12 | 11 | 12 | |
| 4 | 0 | 2 | 2 | |
| 0 | 2 | 2 | 3 | |
| 2 | 3 | 3 | 1 | |
| 3 | 1 | 2 | | |
| 12 | 35 | 12 | 11 | |

リードしたが十五分横山よくゴールを決めて、9—6と再びリードを奪ひ更に十七分鹿子木の自由山投で前田の二野投等で15—9十分中華はロングパスから連続二野投を極めた。

◇後半 日本慎重に攻め、中華李(紹)四反則でオミットさる日本軍は前田ロングシュートに得點を加へ七分には宗像入り李退く、更に日本軍中華のマーク悪いのに乗じよく球を廻し連続ゴールをあけ十分20—12と開く十一分鹿子木オミットされ中江入る、其後十五分には23—15十八分には33—19となりタイムアップ前松井二自由山投を決めた。

◇前半 我が軍好調にスタート十分五分10對9とリードしたが波蘭も追撃鋭く10—13と迫る、タイムアップ前二、三分で日本連続ゴールし23—13と前半を終る。

◇後半 日本益々好調を重ね着々得點を加へ30—15とリード、其の後一進一退兩軍得點を重ね36—15から40—31となり結局日本リ

| | | | | |
|------|----|-----|----|---|
| 【本日】 | 反點 | 113 | 前 | 田 |
| 11 | 12 | 11 | 12 | |
| 4 | 0 | 2 | 2 | |
| 0 | 2 | 2 | 3 | |
| 2 | 3 | 3 | 1 | |
| 3 | 1 | 2 | | |
| 12 | 35 | 12 | 11 | |

| | | | | | | | |
|------|----|-----|----|----|----|----|---|
| 【波蘭】 | 反點 | 110 | 13 | 16 | 14 | 12 | 0 |
| 13 | 16 | 14 | 12 | 0 | | | |
| 7 | 33 | | | | | | |

◇前半 日本細かく攻め前中江、鹿子木のゴールで8分7—0とリードしたが10分頃からメキシコのフオロイ良く7—6と追撃され12分には8—9と逆にメキシコのリードとなる日本は只球を廻すのみでシュートせずメキシコのシュート着々ゴールし8—12とメキンコリ

| | | | | | | |
|--------|----|----|----|----|----|----|
| 【メキシコ】 | 反點 | 80 | 22 | 18 | 31 | 22 |
| 8 | 22 | 18 | 31 | 22 | | |
| 0 | 22 | 18 | 31 | 22 | | |
| 0 | 22 | 18 | 31 | 22 | | |
| 0 | 22 | 18 | 31 | 22 | | |
| 0 | 22 | 18 | 31 | 22 | | |
| 0 | 22 | 18 | 31 | 22 | | |
| 0 | 22 | 18 | 31 | 22 | | |

ードを保つて勝つ。

◇後半 日本は横山、宗像を入れ追撃を續けたがメキシコも良く入れ18分には15—20その後松井のロングシュート見事に極まり17—20と差を3點に縮めたがメキシコ又野投、自由山投を入れ17—23となり最後のスパイトで前田反則のため退場させられる、日本が入ればメキシコ又入れるといつた具合で遂に22—28で日本惜敗す。

日本球誌

第一卷 第二號

昭和十一年七月十日印刷

REUSE を考える

[環境の総合情報商社]

“地球にやさしく” どこかで見たような聞いたような言葉。

あなたはリサイクルに関心を持っていますか？

“地球環境をこれ以上汚したくない”これが私たちの願いで

あるとともに、人類に課せられた大きな課題です。

当社は携帯電話やパソコンなど、鉄を除いた金属（レアメタル）の回収、再生（リサイクル）を主な業務にしている会社です。

日本のバスケットボールの振興、発展を応援します。

リユース・ビズテック 株式会社

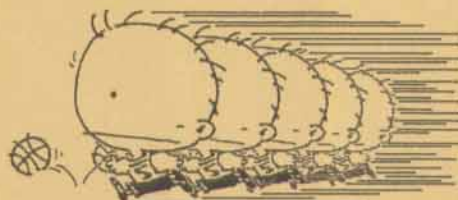
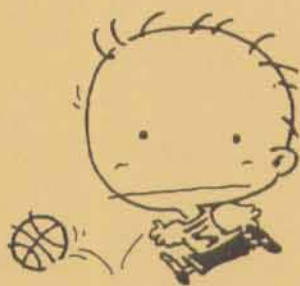
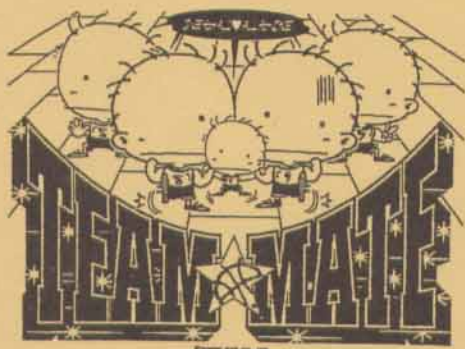
〒333-0842

埼玉県川口市前川2-33-1

TEL 048-263-7023

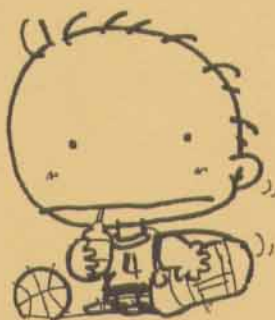
FAX 048-269-8009

代表取締役 永野 鉄洋



DUPER.

表現の自由人。



DUPER.®

デューパーファイブ株式会社
〒130-0023 東京都墨田区立川3-3-5
TEL . (03)3632-7045 (代表)
FAX . (03)3632-8327

URL : <http://www.duper.co.jp>

E-mail: info@duper.co.jp